

プロセス改善推進者育成セミナー ワークショップ2:

改善実践事例によるケーススタディ

独立行政法人 情報処理推進機構
技術本部ソフトウェア・エンジニアリング・センター

プロセス改善WG NPT1
委員 阪本 大志

1. ケーススタディの目的
2. ケーススタディの進め方
3. グループディスカッション
4. 発表と共有



- 関係者の気づきから課題を見つけだし、自ら課題解決策を策定する「ナビゲーション手法」の体験と事例研究を通じて改善実践のポイントや新たな気づきを習得する
- 開発現場の状態をよく見る
- 改善のポイントを考え実践する
- プロセスをより良いものにしていく着眼点とスキルを身につける

- SPINA³CHを用いた改善事例を題材にして、
改善のポイントを議論する

～ワークショップ2のストーリー～

みなさんは、組織の改善推進チームです。

みなさんの組織では、SPINA³CHを用いて改善を進めており
改善事例が報告されてきました。

この事例(組織)に対して、改善推進者として今後どのように
改善を提案し推進していくのでしょうか。次の一手は？



- **改善事例:**
自律的プロセス改善手法 実証実験報告を利用
- **プロセス改善推進チーム:みなさまのグループ**
- **グループディスカッションの進め方**
 0. 進め方の説明(講師)
 1. 指定された実験の事例を理解する(個人演習)
 2. 事例に対するチームについて共有する
 3. 改善推進者として「次の一手は？」を議論する
～模造紙に検討結果をまとめる
 4. グループの検討結果を発表し共有する
 5. まとめ



-20分-

-10分-

-10分-

-40分-

-20分-

-10分-

- お手元の
自律的プロセス改善手法 実証実験事例(プロセス改善推進者育成セミナー教材)をご覧ください。
- 検討する事例：
 - 実験の事例1 (EPP1) : 説明で使います
 - 実験の事例2 (EPP2) : チームA、チームB、チームK
 - 実験の事例3 (EPP2) : 今回は使用しません



個人演習: 10分

- 15:25～15:35
-

グループ演習: 10分

- 15:30~15:40
-

演習3:改善推進者として「次の一手は？」

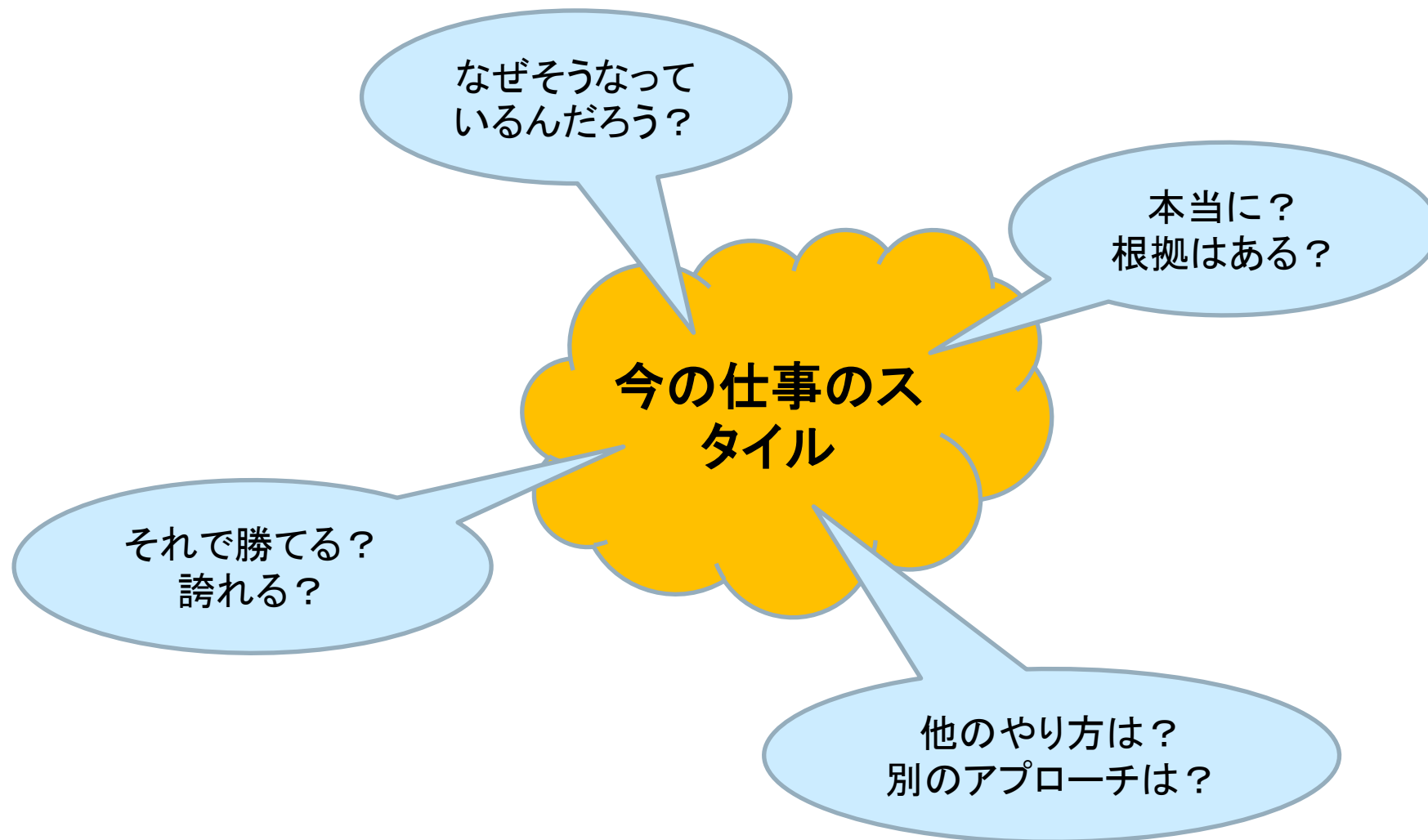
グループ演習:40分

- 15:40~16:20

検討結果発表: 20分

- 16:20~16:40

- 16:40～16:50



みなさま、お疲れ様でした